

なぜ世界遺産に登録されないのか？

近藤 節夫

世界には人類が大切に保存しなければならない、素晴らしい世界遺産が数え切れないほどある。人類が営々と築いてきた文化遺産、そして地球が創造した自然遺産を併せて、現在890箇所の世界遺産が登録されている。そこを訪ねると人間の叡智と技術、自然界の営みの源流に触れ、心から感動を覚える。

私自身これまでに150箇所の世界遺産を見学したが、その場で圧倒的なスケールに打ちのめされ、立ちすくんだことも再三ならずあった。その場に立つと遥かなる祖先から久遠のメッセージと自然の息吹を感じるような敬虔な気持ちにとられる。

しかし、残念ながら世界には世界遺産と同等、否それ以上に価値のある遺産が、未だに登録されないまま、中には人びとに知られることなく忘れ去られてしまうケースもある。ミャンマー(ビルマ)のように、世界遺産条約を締結せず、折角の宝の山を世界へ報せようとしない国策的な事例もあるが、登録要件を充分満たしているにも拘わらず登録されず、「なぜだ？」と首を傾げ、切齒扼腕の思いで見守らざるを得ないケースも数多い。

その中で訪れてみて世界遺産の価値が充分備わり、世界に知らしめるべしと考えている遺産を個人的に5つ挙げるとすれば、①クレタ島クノッソス宮殿(ギリシャ)、②ハトシェプスト葬祭殿(エジプト)、③エフェソス古代遺跡(トルコ)、④ペルガモン遺跡(トルコ)、⑤ナクシェ・ロスタム(イラン)がある。①②は世界史教科書にも掲載されている。③は2世紀に建設されたセルスス図書館からアルカディアン通りを歩き、古代劇場を観てハドリアヌス神殿跡を訪れば、古代エフェソスの都市計画を偲ばせてくれる。さらに、近くには聖母マリアの生家まである。世界遺産・古代トロイア遺跡を上回る規模である。④に至っては、偉大な遺跡の一部が世界遺産となったベルリン博物館島建物内に移築され、古代遺産を略奪された本家である。⑤ペルセポリスから6kmの古代ササン王朝(AD3~7世紀)の都で、アケメネス王朝4代の王墓がある。ゾロアスター教の拝火神殿が堀の中に鎮座して、広い地域にかけて君臨したペルシャ王朝の栄耀栄華を偲ぶことができる。

判断基準が主観的にならざるを得ないが、これら5つのニア世界遺産は、どのリアル世界遺産に比べても優るとも劣らない。いずれも中々難しいアクセスであるが、ものは試しである。ぜひ一度ご自身の五感でしかとご覧いただきたい。